

Q もし、身近なペット間のみで今回の新型コロナのようなパンデミックが起ころう、または、起こった場合、我々動物看護師はまずはどのような行動をとるべきなのでしょう。また、その際の正しい情報の提供やとるべき行動へのご指示をください。

西村先生ご回答

ご質問ありがとうございます。西村が、人医療の視点での「パンデミック」対応を交えてお答えさせていただきます。

①慌てない

そのための今回のご質問かと思えます。このように「想定」をしておくこと、そして「問題」を抽出し、それに備えておくことが「危機管理」です。

②物事を大きく捉えない「ジブンゴト」で考える

情報過多な昨今ですので、どうしても色々と考えてしまうかと思えます。「事件は現場で起こっているのだ！」ではないですが、「あなたにとって COVID-19 対策は、どうでしょうか？」という日常から、問題を洗い出してください。

ご質問から、所属のある動物看護師さんと思えます。職場は？ご自宅は？家族は？ご近所は？そう言った身近な範囲で、検討していきます。

その方法は、いつも使っている思考「動物看護過程」と同じです。情報を取り→アセスメントし、看護問題を考え→介入すべき点を明確に→実行→フィードバックです。世間では PDCA サイクルと言われますが、危機管理ではアセスメント (A) が加わり APDCA となります。しかし私たちは、動物看護師ですので、動物看護過程の思考で考えましょう。実行のところが「準備行動」となるだけの話です。いつもの経験の中で、とても磨かれている部分かと思えます。ですから驚異を覚えておられるのだと推測します。

③COVID-19 に関係なく「目にみえない病原体」は驚異だ！

どの感染症であろうと、医療職として行うことは「同じ」です。今回は、たまたま COVID-19 でしたが、今後さらにどのような「病原体」が出てくるかは未知です。常に、どの感染症だろうが「同じ」という視点が持てておりましたら、動物看護師としての感染対策はできます！何も難しくないので。

④正しい知識を持っておく

消毒薬の濃度、種類、使い方、手洗いの仕方、正しく知っておられますか？滅菌、殺菌、除菌など正しくご存じでしょうか？滅菌物の取り扱い、正しく管理できておりますか？清潔、不潔の概念、清潔操作、ゾーニング、できますでしょうか？意外と曖昧ではないでしょうか？そこを誰より明確しておくのが、動物看護師の役目です。

これらは、正しく行われないと誰に負利益をもたらすでしょうか・・・動物たちですよね。常に患者と家族のためにあるのが、動物看護師です。また獣医師やスタッフを守りますのも、私たちの役目です。

消毒や清潔操作が正しく行われましたら、感染は成立しません。感染が起こる要因として、ご存じかと思いますが、病原体と感染経路、感染宿主の 3 つの条件が揃っていることでしたよね。その 1 つでも取り除くことが「感染を防ぐ」1 番の方法です。

今回の COVID-19 の例で言いますと・・・

病原体 → 取り除くことが難しい

感染経路 → 医療職の力で断つことができる（方法は様々です）

感染宿主 → 自分たちや動物たち、飼い主さまも、病原体に負けない体を持っておくこの感染宿主ですが、動物病院には、どうしても弱っている動物たちが来ます。だからこそ感染経路を断つことを身につけておく必要があります。

⑤どの「病原体」でも同じ！パンデミックの時は、「入り口で食い止める」

「動物病院内に入れないこと！」院外で確認や処置を行うことが、1 番の方法です。

人医療でも、原因不明のバイオハザードの時は、院外にテントが張られ、そこで可能な限りの原因追及が進められます。

では、ご自身の動物病院を想定してみましょう。どうでしょうか？駐車場で食い止められる仕組みでしょうか？もしくは、待合室で食い止められる仕組みになっておりますでしょうか？

たぶん隔離室などの確保はされているかと思いますが、さまざまなことが、曖昧ではないでしょうか？

⑥「入り口で食い止められる」仕組みを構築しておく

感染を持ち込まないために、病院の予算と、人員で何ができるのかを考えます。待合室のレイアウト変更するだけでも違うかもしれません。駐車場に問診を聴きにいくしくみを作ってもよいかもしれませんね。

人医療でも、おのおのの病院が、看護師さんたちの手で、さまざまな工夫を凝らしております。安全対策委員という部署も持っております。

⑦パンデミックもですが、災害にも備えて・・・備蓄はしっかり行っておく

⑧周囲の動物病院との連携を。「おかしい」と思った時に対策し合える関係を築く

このような回答となります。自分を守ること、スタッフを守ること、動物たちを守ること、私たちは忙しいですね。でもそれが動物看護領域です。獣医師のように治療はできませんが、「医療の視点で生活を守る」それが私たちです。

小沼回答

飼い主さん向けの具体的な対処法は、本センターのHPに提示してありますので、参考にしてください。

また、西村先生に加え、具体的な臨床現場での事例を追加します。

自助の備えとして、行動の前に知識が最も重要と考えます。ペットから人へ、人からペットへ、ペットからペットへについての論文などを見る機会があってもいいと思います。

現在、ネット情報が多くありますが、それに惑わされず獣医学会や国などでまとめているのでその資料を見るのが客観的評価となるので以下、参考にして、飼い主さんに説明できるようにしてください。

日本獣医師会

新型コロナウイルス感染症に関する情報

<http://nichiju.lin.gr.jp/covid-19/>

日本獣医学会

COVID-19 (SARS-CoV-2) ウイルスのペット動物への感染について

https://jsvetsci.jp/10_Q&A/v20200709_COVID-19.html

アニコムホールディング株式会社

<https://www.anicom.co.jp/release/2020/200731.html>

厚生労働省：

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/doubutsu_qa__00001.html

東京都獣医師会：

<https://www.tvma.or.jp/public/2020/05/post-66.html>

<https://www.tvma.or.jp/public/items/1-20200514.pdf>

日本ウイルス学会：

<http://jsv.umin.jp/news/news200210.html>

原則、衛生管理をしっかりしていればそれほど大きな問題にはならないと思われませんが、様々な工夫も必要なので以下、私の関与している病院や関係者の病院などで具体的な事例を紹介します。

待合室

完全予約制（元々予約制の病院は時間に余裕をもつ、例えば 15 分間隔を 20 分にするだけでも違う）、駐車場で待ってもらい呼び出しベルまたは携帯で呼び出し、キャリーに入る動物ならキャリーを渡してもらい飼い主は外で待つ、車内での診察（窓を開けること）、往診に切替得られる場合は往診も検討し、往診時は相手がどういった状況かわからないので、玄関先か、ペットだけ預かり往診車内で診察するなどを検討する。

受付

受付にビニールシート（最低限必要）、受付のスタッフは手袋、お金のやり取りを少なくするためカード決済や自動レジを導入など。飼い主さんの体温測定（据え置き型など非接触型を用いる）、電話または受付での事前申請性（書類に Covid-19 感染または疑われる症状がないことの誓約書にサインしてもらう）など

診察室

逃走防止を考えながらの空気の入れ替えは必須（猫や鳥などは注意、ネット等で対応）

特に注意！外に行く猫の対策

外飼い、または外に行く猫は、ニューヨークの事例のように Covid-19 の感染が否定できないので、手袋、フェイスガード、防護服（専用の白衣で可）などで診察する